

Noto PLUS

2



広報のと
第108号

平成26年2月1日発行

発行：能登町 編集：広報情報推進課
〒927-0049
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字1-97番地1

電話：0768-62-11000(他)
URL：http://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp



「春よ来い」
宇出津・大榎木獅子舞保存会による正月の舞。
新春の街を練り歩きました。



千尋の浜草

旅日記② 瑞穂地区特産・鮎のなれずし

加藤三千雄さんがたどる先祖・吉彦の鈴屋入門



【写真左】「なれずし」を仕込むところ。この写真はアジを使っている。【写真上】神道（柿生）から谷屋の方を見る。中央の流れは山田川。【写真下】国道249号線が通り、八の田（瑞穂）は現在も交通の要衝。



5月8日、吉彦はこの日宇出津を立ち、藤波・波並・矢波を経て、山越えをしたのか神道に至ります。中居（穴水町）を目指し、八の田・院内から本江（本木）、亀ヶ原を経て伊久留へと進みました。

親しい仲間たちと別れを交わし、藤波から波並に至る。吉彦は波並を「もとよりわがうみのこの栄ひを祈る地」と呼んでいて、3、4軒に挨拶をしています。波並では生計の糧として四季折々に漁労網を仕掛けていて、集って網の繕いをする人々は、吉彦の伊勢参宮の出発を祝ってくれました。

矢波からは山越えで神道、瑞穂地区へ向かいます。岐路を間違えたり一休みしたりしながら、ここで故郷・宇出津のほうを見やうて歌を詠む。この山道は現在車の通行ができませんが、谷屋と神道の間に下りてくる出口があるとのこと。

行くゆくも かへり見やりし我里の
山がくれなぬ さみだれの空

神道という里に出て、さらに山田川のほとり「八の田」に至る。ここでは夏秋の間に田んぼ仕事の合間に鮎をとって、稀人のもてなしに鮎のなれ鮎を作り蓄えていると特記されています。なれ鮎の素材として海魚のアジ、ハチメ、サバは現在でもよく作られ、川魚はウグイについては聞いたことがあります。鮎は初耳です。現在も地元の人の一部に「鮎のすし（すすとも発音する）」の記憶が残されています。



寛政の旅人：加藤吉彦（かとう・えひこ）。寛政9（1797）年、36歳の時、伊勢の本居宣長の元を訪ね入門。酒垂神社12代宮司。
平成の旅人：加藤三千雄（かとう・みちお=写真）。現酒垂神社宮司。9代前の先祖、吉彦の道中を実際にたどり、伊勢松坂で吉彦と宣長の交流の跡を目の当たりにした。

「広報のと」2月号の印刷費は一部当たり34円です。

